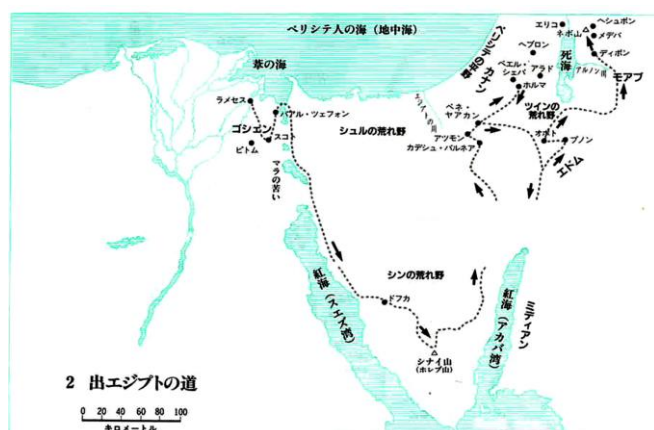


本日の学び テーマ:「申ねて命じる」 テキスト:申命記5章1-6節(参照5:7-22)

【理解の手がかりとして】

■ 「申命記」について ※浅見定雄著『旧約聖書に強くなる本』より

「申命記」とは、「申命」が「申(かさ)ねて命じる」という意味であるから、モーセが約束の地を目の前にして、エジプト脱出以来の出来事を振り返り、イスラエルの律法をもう一度、順々と教えさとしている本だということが出来る。けれどもそれは出エジプト記の律法(たとえば十戒、契約の書など)の単なる反復ではなく、それらを再解釈して、新しい生活環境に適合させるようイスラエル人の生活規範としたものである。



イスラエルの人々は、やっと「約束の地」カナンへの入り口にたどり着いた。「モアブの地」(申命記1:5)の北端に(資料地図を参照)。ここでモーセは荒野の旅を振り返り、あのシナイの契約の精神をもう一度説き聞かせて、イスラエルの人々に忠誠を勧め、そして死んでいく。これが申命記の内容である。

いわば申命記とはモーセの「告別説教」である。しかし同時に、全体として契約文書の形を取っており、シナイ契約をモアブの地で再

確認する文書となっているので、全体として言えば、「説教」として教えの形をとった契約の書、あるいは「契約についての説教の書」と言える。

第一部 モアブでの契約(申命記の教え)への序(1-4章)

- ① 荒野の旅の回顧(1-3章)
- ② シナイ(ホレブ)での契約の再確認(4章)

第二部 モアブでの契約の本体(原申命記)(5-28章)

- ① 契約の根本精神(5-11章)
十戒の復習(5章)／律法の根本(神を愛せよ)とそれを守る理由(6章)／神の選びの愛とそれへの応答のすすめ(7-11章)
- ② 契約の条項(12-26章)
正しい礼拝について(12-16章17節)／正しい指導者について(16章18節-18章)／その他の規則と教え(19-26章)
- ③ 契約の結び(27-28章)
教えと戒めの確認と誓い(27章)／これに従う時の祝福と背く時の罰(28章)

第三部 モアブでの契約の締め括り(29-34章)

- ① この契約と教えに背き滅びを招かないこと(29-30章)
- ② ヨシュアを後継者に、レビ人を契約の箱の番人に任命(31章)
- ③ 契約の歌と12部族への祝福の歌(32-33章)
- ④ モーセの死(34章)

■ 本課のテキスト～十戒(5章1-22節)

モーセは「全イスラエル」(5:1)に向かって言う。「聞け」「学び」「忠実に守りなさい」(同)と。ここに、神の言葉を「聞く(学ぶ)こと」から「守り行うこと」への促しがある。この申命(かさねての命じ)はまさにそのための動機付けである。

そしてモーセは、これから告げるホレブ(シナイ)契約について、それは「我々の先祖と結ばれたのではなく、今ここに生きている我々すべてと結ばれた」(5:3)と述べる。これは、40 年の旅路において代替わりしている民衆の中に、「契約は過去(先祖)のもの」という意識(契約信仰への形骸化)が起こっていたのかもしれない。そのような民に向かって「今ここに生きている我々(への契約)」との意識付けをする必要があったのであろう。

では、申命記版の十戒(前後箇所含む)と出エジプト記版の十戒(前後箇所含む)とはどのような違い(特徴)があるかと言うと、その最大の相違点は第四戒にある。出エジプト記の方では「安息日」の戒めは神が天地創造の完成として七日目に休まれたこと(創世記 2:2-3)が動機となっているが、申命記では、それは神が出エジプトを導かれたことの記念として定められたことになっている。

関田寛雄氏はこう言う。「十戒を生み出したのは神の救いの歴史(救済史)という見方に立ったイスラエルの信仰告白であり、神の恵みによって選ばれた民の応答である、といえる。…ここで忘れてはならないことは、この契約はそれを結ぶに値しなかった弱小のイスラエルを恵みによって選び、神の使命のためにエジプトから解放された、神の憐れみのはからいによってとり結ばれた契約だということです。かくてイスラエルは恵みに感謝をもって応える責任を負いました」(『十戒・主の祈り』より)と。

律法(契約)への誠実さは「信仰告白」であり「応答」である、との指摘は大切。もともと「値しないもの」という自己認識があつてこそ「恵み」への感謝が起こる。第一戒から第十戒まで「…ならない」の部分に変えて「…するはずがない」(原意に沿って)と読み替え、さらに「…します(しません)」と「告白(応答)」してみると十戒の印象も変わる。(例)第一戒「あなたには、わたしをおいてほかに神があるはずがない」→「(救いの恵みに応え)わたしは、あなたをおいてほかに神をもちません！」

(聖書教育より)

「神はイスラエルの民を、エジプトの過酷な奴隷の束縛から解放し、自由にしてくださいました。それゆえ、十戒も禁止事項を並べて、人を縛るものではありません。『…してはならない』という禁止の訳文は、原語では『あなたは…するはずがない。…できる』というニュアンスです。解放され自由にされた者が、未来に向かって歩み出す励ましです。」(聖書の学び～十戒…自由への励まし)。